

日本人会 軽音楽同好会

よもやま話

～令和の軽音life～

Logo by Ishikuri Yoshie

第2回 「サーキットブレーカー下でのJAS軽音の活動をご紹介します」

倶楽部 軽音楽同好会

第2回の今回は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染防止対策として、シンガポールが非常に厳格に運用しているサーキットブレーカー下でのJAS軽音の活動をご紹介します。

ご存知のとおり、この原稿を書いている12月1日現在では「外での会合は5人まで」「自宅に招き入れるのは5人まで」などの制約があります。徐々に「ステージの広さにもよるが、ボーカル同士は2メートル離れていればマスクなしでステージに上がっても良い」など緩和の動きは見えますが、以前のように大観衆(主催者発表)を呼んでの大々的なライブ活動は制限されています。

しかし、そこで活動を止める我々がJAS軽音メンバーではありません。深夜まで続き画面の向こう側で1人また1人と寝落ちして沈んでいく、いわゆる「オンライン飲み」をまずは毎週実施しました。そこで、世界的にロックダウンの風潮が出始めた頃、プロの方々が自宅で個別に演奏し持ち寄り、1つの作品にして動画サイトにアップしていることに触発され、我々もやってみようということに。ところが、観ることと作ることで天と地ほどの差があることを我々は早晩思い知ることになるのです。このような「オンラインコラボレーション」にはいくつか方法があります。

1. 2人でコラボ

一番簡易なのは誰か1人が基礎となる演奏を同時に録音/録画しファイルで次のメンバーに転送し次のメンバーがそれに合わせて演奏し同時に録音/録画、2つのファイルを合体させるというものです。カラオケに合わせて演奏する感覚ですね。この写真の2人をデイスる訳では決してありませんが(ええ、決して)、年齢層が若干高く、細かい作業をせず素早く作品を発表してしまおうという人たちはこの方法が一番良いでしょう。



シニアな魅力にフォーリンラブ

2. 3人以上でコラボ

少しこだわった人たち、すなわち1990年などにミュージックビデオ全盛時代を通過してしまったMTV世代を中心としたメンバーは、3人以上でこだわったカットを盛りだくさんに入れた凝ったものを作ろうという動きもありました。これも基本は「1. 2人でコラボ」と同じく誰かが基礎となる録音/動画を作り、それに合わせて各自が自宅なりで録音/動画を作成し「編集担当」にファイルを送り、その「編集担当」は時には週末徹夜で編集作業をし完成させるものです。こうやって苦労して作って、明け方にメンバーに披露したコンテンツも(十分睡眠をとった)メンバーから「あそこは僕のボーカル映像をもっと前面に出さない」とか「ベースの音と映像がコンマ1秒ズレてるから直して」とかダメ出しが入るわけです。これが原因で解散するバンドもあるかもしれません。よく我慢した、ワタシ笑。



最初のころは本当に試行錯誤でした

3. 大人数でコラボ

更にこだわったメンバーは総勢10人などの壮大な作品にも挑戦しました、世界の1つや2つを救いたいかなのような。プロが使うような高価な機材やソフトウェアがあれば簡単なのかもしれませんが、いかにせんそこはアマチュア(とは言っても最近のスマートフォンやタブレットはすごいですね、ソファに寝転がりながら簡単にビデオ編集ができます)。既存の機器や無料アプリを使って実現しようとするものですから大変です。3つくらい映像を要所所で重ねた時点で一番最初の映像と音声がずれてくるなどは日常茶飯事。届いた映像の画質が悪いので再送をお願いしても中々送ってもらえなかったり、重ねすぎてタブレットやパソコンがフリーズしたり、10回重ねたものの2回目に重ねた映像に不備があり一からやり直したり、思い出だけでも2度とやりたくありません(他人事のように書いているが、やはり君か笑)。





楽しそうな映像の影には人知れぬ苦労があるとご理解いただきたい

4. 進化形コラボ

そうこうしている内にメンバーもだいぶ動画作成に慣れてきて新しいことに挑戦したくなってきました。1つはアカペラ、1つはストーリーし立ての「ミュージックビデオ」、そして1つはなんと全楽器を1人で演奏。アカペラについては音楽学校出身のメンバーが和音を考え譜面を作りメンバーに割り当て、それを合わせました。結果、素晴らしい作品が出来上がりました。



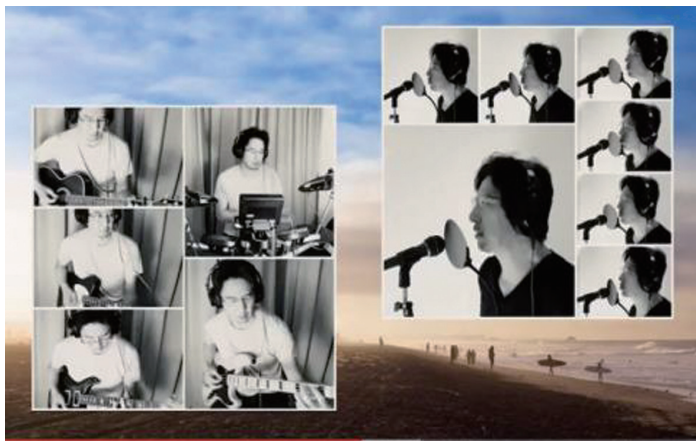
「アカペラに挑戦してみたい」というメンバーの何気ないつぶやきを実現してしまう層の厚さがJAS軽音の身上

次は寸劇に続き全員(女子含む)がもみ上げをつけ昭和のあの名曲を演奏。それぞれが切り取った黒い色紙や味付け海苔を付けてがんばりました(その海苔は撮影後スタッフが美味しく頂きました)。これがあまりに上手くいったので「もうリアルに集まらなくても良いんじゃないか」と言い出すメンバーがいたとかいかなかったとか。なお、動画作成時点ではまだ本当にお互い会ったことのないメンバーもいて、不思議な感じがしつつもとても心温まる令和時代のコラボが生まれました。



ナスビもマイクにしてしまう力技(ちからわざ)が奇跡のコラボを生んだ

そして最後は究極のStay Home動画で、全ての演奏を1人でやっのけるメンバーもいました。もちろん自宅に全楽器がそろっていてアレンジからハーモニーまで1人でこなせる音楽的センスとそれに見合うテクニックがある部員のみにも可能な作品です。



このメンバーには友達がいないだけという心配の声も

5. あてぶりコラボ

最後にフェーズ2に入り少しだけ集まりに関するルールが緩和された今、スタジオに数人集まりまずは録音し、それに合わせて演奏しているふりをする「当てぶり」動画も数多く作成されています。これは自宅で1人で録音するのと違うので、ミスしてはいけないということで演奏を録音する時は緊張しますが、OKテイクが出来た後に自分達の演奏を聴きながら演奏しているふりをするのは、自分達が憧れていたミュージシャンのミュージックビデオを再現しているようで、皆高校生に戻ったような笑顔で本当に楽しそうに動画を作っています。



よく働き、よく遊ぶ。いい大人とはかくありがたい

なお、これらの動画は右記QRコードからアクセスできる動画ページに主なものを収納しています。お時間がある時に是非アクセスしてメンバーの頑張りをみてください(動画作成者も寝てくださいね)。



動画

第2回のJAS軽音よもやま話、いかがでしたでしょうか。まだまだ油断できない状況で自宅にこもりがちな日々ですが、同じ趣味を持つ仲間とオンラインでつながりこの難局を皆で乗り切りましょう。

Stay Safe!

文責・写真: 倶楽部 軽音楽同好会
桑原 隆(ニックネーム: おぎ)



日本人会の
軽音楽同好会ページ